

## 第2学年 社会科（地理的分野）学習指導案

指導者 和田 悠希

1 単元名 日本の諸地域「関東地方」

2 目標

- (1) 人口や都市・村落を中核とした考察を基に、関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとすることができる。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 関東地方を人口や都市、村落を中心として多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- (3) 適切に選択した情報を基に、関東地方の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめて活用することができる。 (資料活用の技能)
- (4) 関東地方について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができる。 (社会的事象についての知識・理解)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・関東地方の地域的特色を調べる学習に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	・過密や過疎の課題を自分の言葉で考え、根拠を基に説明している。	・過密地域や過疎地域の問題点を、資料から読み取っている。	・東京大都市圏の拡大とその影響を理解している。

4 単元について

(1) 教材について

本単元は日本をいくつかの地域に分け、中核となる視点を基に、違う視点を付け加えて考察を行っていく「動態地誌」による学習で地理的事象の本質に迫っていく単元である。本単元「人口や都市、村落を中心とした考察」では、日本の総人口の4分の1を占める関東地方の人口、都市や村落の様子を中核とし、人々の生活や産業などとのつながりを関連付け、過密及び過疎問題の解決が地域の課題であることを追究する単元である。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は男女協力し合って学習することができ、積極的に発言をすることができる。しかし社会科の授業においては、意欲的に学習することができるものの、発表することが苦手である生徒が多く、今回のアンケートでその意識の根底には「何を根拠にして説明すればいいか分からない」ということが背景にあることが分かった。

(3) 指導にあたって

そこで今回関東地方を学ぶにあたり、関東地方の人口密度の分布を示した地図を、単元を貫く主題図として用い、毎時間使用することにする。人口密度の主題図で表される「都市では人口密度が高く、地方では低い」という事象に、1時間ごとに表や図を追加していき、人口集中の影響、ひいては過密・過疎の問題とその影響を考えることで、単元の課題を追究していくようにしたい。

(4) 学習計画及び評価計画（6時間扱い） ○は本時

時	学習計画	関	思	技	知	評価規準
1	関東地方の人口と自然の様子について知る。	○				・関東地方の地域的特色を調べる学習に関心をもち、意欲的に追究しようとする。
2	東京に多くの人口が集まる理由を調べる。			○		・写真や地図、グラフから、東京が多くの人口を引き寄せる要因を読み取ることができる。
3	東京大都市圏の拡大と都市の変化について知る。				○	・東京大都市圏ではどのように住宅地が拡大していくか理解することができる。
④	人口集中による都市問題とその対策を考える。		○			・都市に人口が集中することの問題と対策を、主題図と複数の図や表を組み合わせ、その根拠を説明することができる。
5	工業の発展とともに集中した人口について読み取る。			○		・工業の発展と人口集中について、その因果関係や変化を資料から読み取ることができる。
6	大都市圏のまわりの地域のようすと課題を考える。		○			・＊＊町のよさを考え、資料を根拠としてキャッシュコピーを作成することができる。

## 5 本時の学習

### (1) 目標

都市に人口が集中することの問題と対策を、主題図と複数の図や表を組み合わせ、その根拠を説明することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)

### (2) 準備物

メイン主題図（人口密度）、追加図①（人口が集まる根拠となる資料）、追加図②（都市問題に関する資料）、追加図③（都市問題を解決する説明となる資料）、実物投影機、ワークシート、PC

### (3) 展開

学習活動及び内容	準備・資料	指導上の留意点（評価）
1 前時までの学習を振り返る。		・東京の地価が上がった結果、周辺にニュータウンが建設されたことを復習させる。
2 本時の学習課題を確認する。 【見通しタイム】 東京に人口が集中することの何が問題で、どのような対策が必要か	メイン主題図	・主題図を使い、過密の地域が東京に集中していることに気づけるようにする。
3 東京に人口が集中することで起こっている問題を、資料を追加して考える。 【課題解決タイム】 ア：電車乗り入れ → 通勤ラッシュ イ：道路の集中 → 騒音、大気汚染 ウ：商店の集中 → ごみ増、処分場不足 エ：地価の高騰 → 昼夜の人口差（治安）	追加資料①②（G I S）	・パソコン上の地図を操作し、東京に人口が集中していることを確認させる。 ・前回までの授業で予想した過密の問題点と比較させる。 ・主題図に追加して考える図①②を選択し、意見を構築できるようにさせる。その際①と②の対応は教師が説明し、主題図からの流れに見通しを持たせる。
4 3で考えた問題に対する対策を、資料を追加して考える。 【課題解決タイム】	追加図③	・グループで進める。その際使用する図を違うものにし、考えたことをグループ内で説明し合う。
5 考えた問題と対策を説明する。 【シェアタイム】 ・人口の分散…郊外にニュータウン ・都市環境の改善…エコカー リサイクル ・3 R、オフピーク通勤	実物投影機 T V	・対応する図を生徒が選択し、主題図からの説明が一貫しているかどうかをグループで発表し合い確認させる。 ・いくつかのグループを指名し発表させる。図を投影機に映し、どの部分を説明しているかわかるように説明させる。 ・実際に取り組まれている対策を説明する。 評　都市に人口が集中することの問題と対策を、図を組み合わせ説明することができたか。（発表・ワークシート）
6 実際に取り組まれている対策を知る。 ・研究学園都市 ・首都機能移転	昔のつくば市写真 現在のつくば市の写真（G I S）	・つくば市の過去と現在の航空写真をPC上で確認して、身近な地域でも都市問題の影響を受けていることに気付かせる。 ・首都機能移転を調べさせ、人口分散のために国も政策を行っていることを理解させる ・まとめを自分の言葉で書かせる。 ・都市問題が起こっている一方、地方ではどのような問題があるのか投げかける。
7 本時のまとめをする 【振り返りタイム】 人口が集中するといろいろな都市問題が起こってくる。そこで、都市問題を解消するためには、一人一人が環境を意識した生活を心がける必要がある。		・次時は「工業の発展とともに集中した人口」について学習することを伝える。
8 次時の学習内容を確認する。		